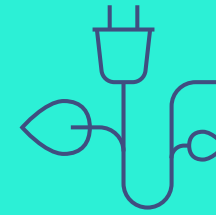


# オープンソースとエネルギーの相互運用性

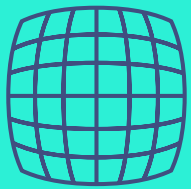
**デジタルテクノロジーの影響:**  
デジタルテクノロジーだけで年間2兆1000億ドルの収益が見込まれています。



**エネルギー分野の課題:**  
エネルギー分野では、2050年までに需要を50%増加させながら、より環境に優しく、よりスマートになる必要があります。



**オープンソースの可能性:**  
オープンソーステクノロジーは、クリーンエネルギーへの移行を加速させる上で最も大きな可能性を秘めています。

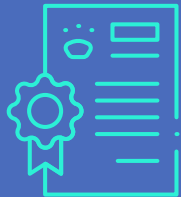


**マイクログリッドの役割:**  
マイクログリッドは、信頼性が高く、主権のある電力を提供することで、エネルギーへのアクセスと移行の鍵となります。

**スマートグリッドの開発:**  
デジタル化には、双方向通信と高度なセンサーを備えたスマートグリッドの開発が含まれます。



**オープンソースのメリット:**  
オープンソースプラットフォームは、コスト削減、相互運用性の向上、エネルギーシステム全体の統合改善を実現します。



**標準とコラボレーション:**  
業界全体で標準を策定し、相互運用性を促進し、サイロ化を削減する必要があります。

**データ共有の重要性:**  
オープンソースプラットフォームは、透明性が高くリアルタイムのデータ共有により、より優れた長期的な計画を可能にします。



**将来にわたって有効なテクノロジー:**  
オープンソースソリューションを採用することで、資産は進化する標準やテクノロジーに適応し、互換性を維持することができます。



**相互運用性:** IEEE 2030.5は、スマートグリッドと消費者間の通信を、TCP/IPやXMLなどのWebオープンスタンダードを使用して標準化します。

**相互運用ソリューション:**  
EVerestプロジェクトは、EV充電のイノベーションに向けた拡張性のある相互運用可能な基盤を提供しながら、コンプライアンスを簡素化することで業界のステークホルダーを支援します。



**相互運用性ソリューション:**  
SPEEDIERプロジェクトは、DERsの改善とスマートグリッドシステムへの統合において、オープンソースソフトウェアとオープンスタンダードが持つ大きな可能性を明らかにしました。

